

資料5

第3回こども貧困対策会議 資料

平成28年度あすたか事業報告と平成29年度の展開

株式会社スターシャル教育研究所
名古屋市千種区吹上 2-4-25 トラフィック吹上5階

TEL 052-745-9088

<http://sturcial.info/>

平成28年度事業報告

○ 1. 利用決定児童

学年	利用決定人数			
	生活保護 受給世帯	就学援助 受給世帯	その他	合計 (※)
小学4年生		5名	2名	7名
小学5年生		3名	3名	6名
小学6年生	1名	4名		5名
合計	1名	12名	5名	18名

※合計は利用決定者数(世帯状況は重複する項目あり)

○ 2. 実施回数と参加状況

- ・全学習支援回数:92回
- ・参加児童:のべ868名(1回平均約9.4名)
- ・学生サポーター参加数:のべ251名(1回平均約2.7名)
- ・モンスタークエスト:46回 ・体験講座回数:26回
- ・夕食、おやつ提供:94回



平成28年度事業報告

○ その他の実施事項

(1) あすたか通信発行

- ・目的: 教員や保護者にあすたかの活動の様子を伝える
- ・発行回数: 毎月1回発行(年間9回)



(2) モンスタークエスト

- ・目的: 異学年同士で学び合いをする
- ・内容: 学校の宿題や用意したプリントを用いて、分からないところをお互いに教えあって、分からないことや苦手を減らしていく。
- ・結果: 上の学年の子が下の学年の子に教えて理解を深める光景が見られた。また、自ら学習を進めることが苦手な子も解決しようという意欲を引き出すことが出来た。

平成28年度事業報告

(3) 体験講座

目的: 学習以外の体験から学びを見つけてもらう

内容: 討論大会や創作活動、筆ペン講座 など

結果: 勉強が苦手な子でも活躍する機会を用意することが出来た。また、地域の方々を招いた講座を実施する事で、多くの大人たちと接する機会を得て、地域で「あすたか」の子供達の様子を共有することが出来た。



(4) 夕食、おやつの提供

実施回数: 94回

結果: 高校生サポーターと飲食を共にしながら、子供達の話
を聞く事で学校や家での様子を共有する事が出来た。

食事マナーに関して指導、改善することが出来た。



平成28年度事業報告

(5) 学生サポーター研修

- ・目的: 学生サポーター同士での情報共有や活動内容の見直し
- ・実施回数: 3回(9月14日、9月24日、10月26日)


・内容: 第1回(学生サポーター15名参加)

- ①あすたかとは
- ②個人情報について
- ③協力してもらいたい事
- ④相談、困っている事
- ⑤チームで打ち合わせ

第2回(学生サポーター16名参加)

- ①前回の内容確認
- ②情報共有について
- ③9月から追加した取り組み
- ④相談、困っている事等
- ⑤シフト確認


第3回(学生サポーター4名参加)

- ①子供達の様子、対応について
 - ②おやつ夕食後の時間のサポーターの動きについて確認
- 

子供たちの変化・成長

- 夕飯の片づけでお手伝いしている子の姿を見て、他の子も一生懸命お手伝いをするようになった。
- なかなか発言しなかった子が、自分で意見を「発表したい」と言うようになった。
- 自分の気持ちを言葉で伝えようとする姿勢が見られるようになった。

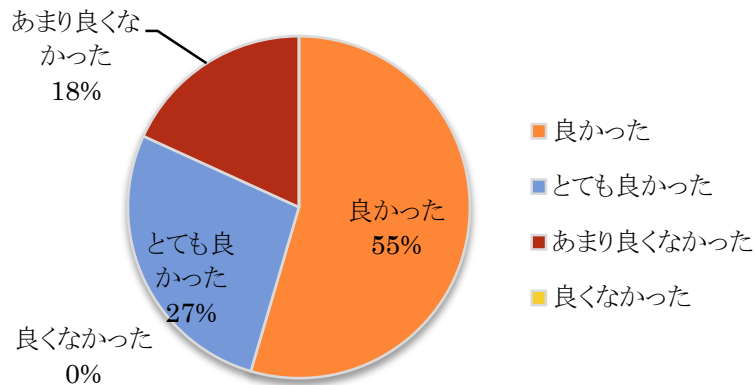
学校の先生より

- 同じ進学先のお友達ができた様子
 - 本読みをやってくるようになった。
 - 宿題忘れや持ち物忘れが改善されてきた。
 - 笑顔が増え、話しかければ返事ができるようになった。
 - 自分で「あすたか」に行く日やバスの時間を把握し、自主的に動ける様になってきた。
- 

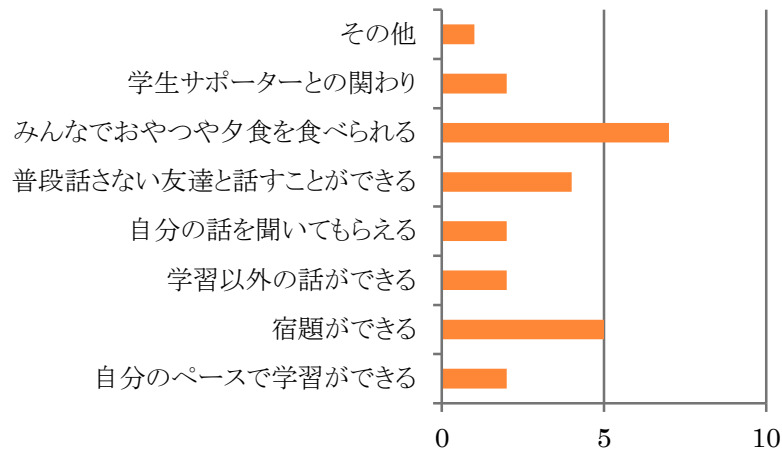
児童アンケートより抜粋

(対象児童11名)

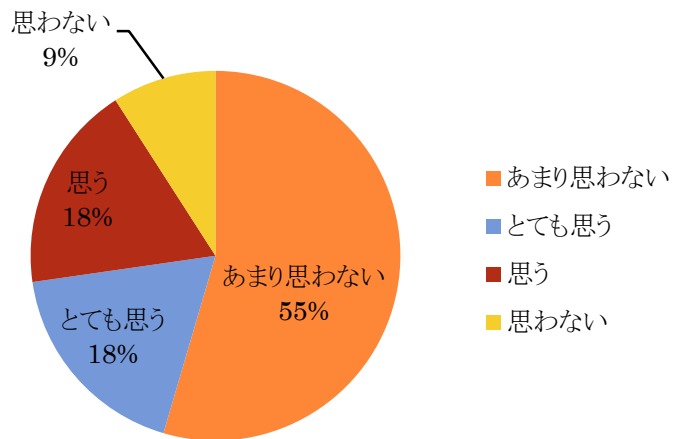
参加して良かったか



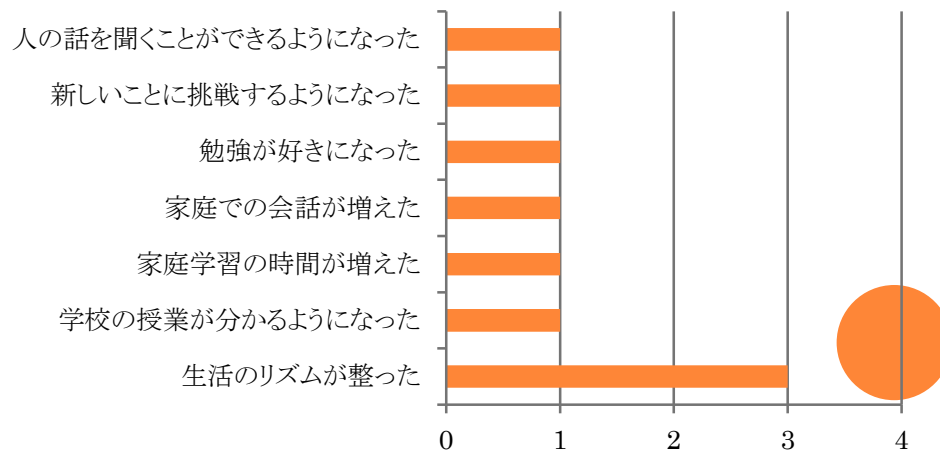
良かったと思う理由(複数回答)



参加して成長したと思うか



成長したと感じる点(複数回答)



今後の展開 ～課題と対策案～

○ 1. 参加者の増加

課題①

開設後2～3カ月で利用を辞めてしまった児童が多く見られた。
(比較的、学習意欲が高かった児童の退会が目立った)

⇒対策案

- ・「学習をする場所」という認識を定着させるために、毎回、あすたかのルールの確認をしていく。
- ・“学習支援”が必要なのか、“福祉的支援”が必要なのかを、個別に考え、対応できるようにしていく。

学習支援案→理解できていない学年の内容まで戻って復習

福祉的支援案→毎回、雑談をする時間を意識的に設ける

今後の展開 ～課題と対策～

○ 学習の場としての支援の充実

課題①

宿題に取り組むまでのだらだらした時間をなくす。

⇒対策案

- ・“宿題が終わったらパズル教具に取り組む”という流れにして、宿題の後に楽しみを作っておく。

課題②

宿題以外の学習にも取り組めるようにする。

⇒対策案

- ・プリント学習の種類を充実させる。
- ・復習できる内容を低学年の物から準備をし、理解できていない分野の基礎を見つけ、戻れるようにする。
- ・プリントを1枚取り組んだらポイントをもらえる仕組みにし、取り組んだ量が目に見えるようにする。

今後の展開 ～課題と対策案～

課題③

活動にメリハリをつける。片付けを早くできるようにする。

⇒対策案

- ・毎回、時間割に沿って活動を進め、区切りの時間の5分前や3分前には時間の告知、タイマーを使って音でも時間が分かるようにする。
- ・脳トレに全員で取り組む時間を作り、短時間の集中と積み重ねの進歩を感じてもらえるようにする。
- ・終わりの挨拶の時には、学生サポーターから一言感想をもらうようにし、その日の振り返りをしてから帰るようにする。



今後の展開 ～課題と対策～

課題④

学生サポーターの定着化、研修による対応力向上

⇒対策案

- ・今年度より高浜高校ボランティア部の活動の一環として「あすたか」の活動が認められる事になった為、昨年度以上の学生サポーターの参加が見込める。
- ・より連携を図る為、運営指導者がおよそ月1回のペースで高浜高校を訪問し、部活動に参加。学生サポーターの研修も兼ねて、「あすたか」で行う講座などの企画、準備、実施等を共に行っていく。

